



嫁花
びらきてめ祕に胸をび喜。額のとなくき康健たつ上盛りきつくにうやの桃胡。許口なうやるせは風を笑微のザリ・ナモ。差眼な柄恰。さるみてえ燃に翠帯の興新く如の嫁花のこまいは民國のヤキアヴロス。るみてちみち満が福章に中の装のそたし坐と然端。嫁花たつ飾着にかや



いし久は等れ彼。日記記の國。ろみてし福祝を立獨の國てう躍を着晴は者若と女少の上馬。ろみてれきこどほが飾首の色緑はに胸れら飾で花のりどりと色は鼠。馬装の色白たいひを種ヤビリア **ひ祝の國**
 しく歩驟を上街て馬は者若たれば選み休を事仕は民國はに日記記の二年毎。かとこだん喜りかばかいは等れ彼。に地天の和共らか下制懸。に地天の由自らか者服征被。たつかならなげねせ從忍てめなを苦辛間



ましてつ春を心の々吾でけだすらぐめを像想は惑魅の山。お沈に中の幻夢はこら負を陽夕き跡でまいゆ散てけ受を陽朝は峯雪るた崖玲。お村山のヤキアザロスるみを峯連のスプルアく選 後午のスプルア
。るあで民国いる明む好を樂音てしにらがなれ生は民國の國のこ。ふ歌に活快はでん飲をルービの慢自國お々時は等れ彼な林繩。るるてう體てめどとを車は若若く働てしと々致てし出見を地耕に僅に覆山。ふ



まはに國山たしうかは教舊な格殿の式儀。るみてじ奉を教舊く多は國語む圍をスブルアの歌中ずら限に方地ヤキアヴロス・コエチ **リ**のい
 る祈を何は女乙のこに神るな主。い厚に仰信てれま育に氣望たしうからか時効は民國てしを。るみてれき種に全完が式儀のらか昔に別特た



若き信徒の行列 青森県で、一日の祭りに、老若男女が、つぎつぎと中町を練り歩く。その一隊で、少
るあでることた来でんこり細に院寺のオニトア・トンセてて立に頭先をしるじ旗たれ入講を名の區教の屬所自各がちた女少年少るあ



いは民國たへ耐に從忍。た來てし守死を河山の國故に中の苦辛と害迫も聞の紀世幾は民國ヤキアヴロス。コエチたつなく深みし親に民國本日々吾てつよにとこたし征出にヤリベシ時當戰大洲歐 **者若な氣元**
。いなれら見はに國他は結團の民國ふいとふ歌に共き働に共じん重を康健に常に活快くる明。るあてれは現くよにルーコソ探體體團の民國のそは神精の等較。るあが戰の天昇氣意ひは味を由の立獨くる明ま



子とところろ
 山たま山と重機にありなつろスダキヤの山村の情景。かいなはでげし樂で氣邪無もにかい。景情の村山のヤキアダロスたつありな重もに重機と山たま山
 子とところろ
 春に底耳がー



み恵の神てべすは者のどほろま集。女少女處の酷妙婦主女老。ろことろおてしを唱合の歌美讀てしそき聞を教説した禱祈りま集に庭の會教がちた人婦のヤキウロス・コエチるえ燃に仰信 唱合の歌美讀
ろあでのもたしは現を俗風民國な有特に國のこもれづいがるあはでれぞれそみ好りどりと色。よ見を裝服たう説を妍に自各のちた女善の勢大のこてさ。ろあで間瞬一たれさ化淨な聖神。いなは疑てじ信を



に事何は人ヤリガンハいたつゝ。るす慢自とた街の美最洲歐を街のこは人ヤリガンハ。るあで市都の的代近はトスベダブ **近附場車停西**
 だ感質の者見質はれそ。いんで張誇的聯傳宣るな單はけだ慢自のトスベダブのこがいなはでいながひ嫌の張誇に葉言で民國なき好傳宣れま



破の面正が柱圓の本八な大彫で物建な正端の風典古新式ヤシリギは館術美民國るあにトッゲリ・スロアウ園公大のトスベダブ **面正館奇美**
 るあで列陳の選粒もれづい。るあてれ分にと廊畫の家大古の國各洲歐と廊畫代近のヤリガンハは翼兩のそりあ間實に中央。るあてへ支を風



漁師のお祭り。湖の水に、お祭りの名も有名に更もどれけ。あで名有で大盛に常非はり祭るけおにイニヴェグのスイス。選師漁たつ歸てげ上を歌凱に漁大。いなは筈るあで漁不が船漁だん積を女い若れきを飾艦滿。るあでし催のりいろいふ行てし併合が合組の師漁

三、現 状

小國分立の悩み

ヨーロッパは、北に小さい國の集合から成つてゐる。殊にその中間に當つて、南北に一層小さい邦國が一連をなして並び、歐洲を東西兩部に區劃してゐる。この地帯に屬する國は北から數へると、フィンランド、エストニア、ラトヴィヤ、リスマニア、ポーランド、チエコ・スロヴァキヤ、オーストリア、スウイス、ハンガリア並にルーマニア、ユーゴスラヴィヤ、ブルガリア、アルバニア、ギリシヤ等のバルカン諸邦である。これは全く地形のしからしむるところで、人文地理の論ずる如く、河川や山脈の如き地的事項が、自然的國境をなすがためである。しかし歴史的に觀察すると、フィンランドにせよエストニア並にリスマニアにせよ、最近までロシアに隸屬してゐたポーランドの如きも、中興分割の悲運に遭遇してゐた。その他の諸邦と雖も、類似的變遷を辿つてゐないものはない。して見ると、自然的國境は必ずしも絶対のものではないといふことが知れる。同時に、一時は人為的原因により無理な國境が定められても、また何れかの機會には、再び自然的國境にかへる傾向のあることも察せられる。スウイスを始め、チエコ・スロヴァキヤ、オーストリア並にハンガリア等、中央オーストリア諸國もまたこの範を脱せず、まさに自然的國境と人為的國境との間に存する衝突で、惱んでゐる状況が見えるのである。今スウイスを始めとして、順次その現況を吟味して見よう。

永遠の中立國スウイス

國際的中心國

スウイスは早くオーストリアの領土であつたが、元來が獨・佛・奧・伊四強國の分水界地で、山は秀で水は清く、風景は絶佳である。關係諸國は何れもこれを欲しないものはない。互に領域争ひをしては到底をさまりはつかない。面積においては僅に四一、二九八平方キロ、わが九州位に過ぎない。獨立國としては餘りに小さい感に打たれるが、雄大な深山幽谷で、堅固なる天然の境界によつて割せられてゐるので、自ら世塵を避けた仙境として超世間的の趣がある。

これは自然住民にも影響して獨立心を養成し、またその位置が諸強國の間に介在してゐるので、列國でもこれを獨立させて、列強緩衝の地帯とするの要を認むるやうになり、一六四八年のウエストファリヤ條約で先獨立を承認され、一八一五年にはウィーン會議で永世局外中立國となつたのである。いはば世界各國の別業地、世界の公園として列強に擔保されることになつたもので、今次の世界大戦にも中立を恪守し得た次第である。かういふところであるから、全世界を公正に考察する國際共同事業の如きはまさに清麗、超世間的なこの高地において最も適切なので、現今では萬國赤十字社本部、萬國聯合郵便電信事務局を始め、世界大戦の結果恒久平和を目的として生れた國際聯盟本部等、皆こゝを中心としてゐる。

熾烈なる團結心

住民は隣接諸國から次第に膨脹してきた

もので、自ら一民族でない。言語の如きも所によりそれ々々異つてゐる。即ちバールゼを西極とする中央アルプス以北、ライン上流の地にはドイツ民族、西部でライン上流よりジュラ山地方にはフランス人、東南部地方はイタリア人が居住してをり、その割合はドイツ民族七〇パーセント、フランス民族二〇パーセント、イタリア民族六パーセント、並にユダヤ民族二パーセントである。

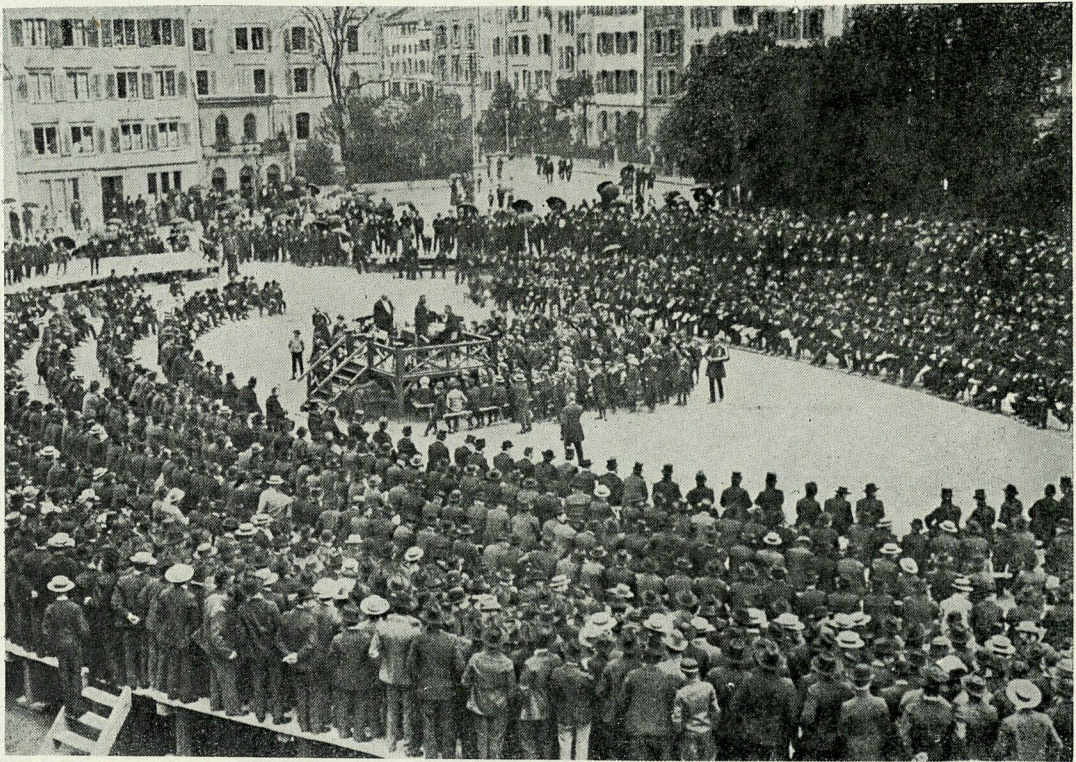


公現式の夜前鬼の二十二月五日か一月六日の公現式に鬼は非常なる力をもつてゐる。公現式の夜前鬼の二十二月五日か一月六日の公現式に鬼は非常なる力をもつてゐる。

かく隣邦民族の集合地であるから、自然に國家としては共和政體をとることは勿論で、國內を二二州に分ち、自治組織で各憲法を備へ各議會を有し、州長を置いてこれを治め、この各州は聯合して議會を組織し、國民を代表して國家統治の權を握つてゐる。

議會は上院即ち聯邦議會と、下院即ち國民議會の二院よりなり、上院は各州より二名づゝ、選出する四四人の議員をもつて組織し、下院は人口二萬人につき一人の割合にて、直接投票により選出せる一九八名の議員よりなつてゐる。年齢二二歳に達せるものは選舉權を有し、選舉權を有するものは、宗教家を除くほかは、みな被選舉權をも併せ有するのである。

この議會の合同議會より七人の行政執行委員を選挙して、内務、外務、司法、



外野地方議會 此の議會は市民が全部集る。この議會の重要なる例は、議會が満一致で決した事項の承認が議會の力にばれけなし生發のいなしである。

軍務、財務、農工務、遞信の任に當らしめ、任期を三箇年とし、この中より更に大統領を互選し、一箇年の任期をもつてこの任に當らしめる。

國內は地勢の關係上物資に乏しいので國民の生活は多大の努力を必要とする。従つて住民は一般に勤勉で實業尙武の氣風に富むやうになり、また自然の境界は全く他との關係を絶つてゐるので、自然と住民は團結心に富み、愛郷心の熾烈な人間になる。それで近時交通が便利になり、外客の來往繁くなり、外國の惡習慣等の輸入も機會が多であらうが、國民は何等影響を受けることがなく、健全に勤勉力行の精神を維持してゐる。スイスを訪れた邦人が、その氣風を稱揚し、或は模範とするに足るものなりといひ、或は感心な國民なりと賞讃するものも決して過言でない。

宗教は民族によつて一様でないが、概してスイス、イタリヤ並びにオーストリアに接せる地方のドイツ人はローマ舊教を奉じ、ドイツ民族は主に新教を奉じてゐる。教育はよく行はれ、殊に初等教育は古來から知られ、また實業教育も盛であり、大學はバーゼルを始めチューリッヒ、ベルン、ジュネーヴ、ローザンヌ、フライ



ス・コ・に乳るぼしに草枯るめ集。なかきよはのもるす耕。働勞きし正ふ誘をのものを康健。氣空きよ。物食きし新 **す耕をスイウス**
 よ分氣ならやのものを和平なか靜。るあはで婦農ならさし樂てしそな麗林分隨もてしにれそ。ちた婦農の送を日きよに地作耕のスイウ



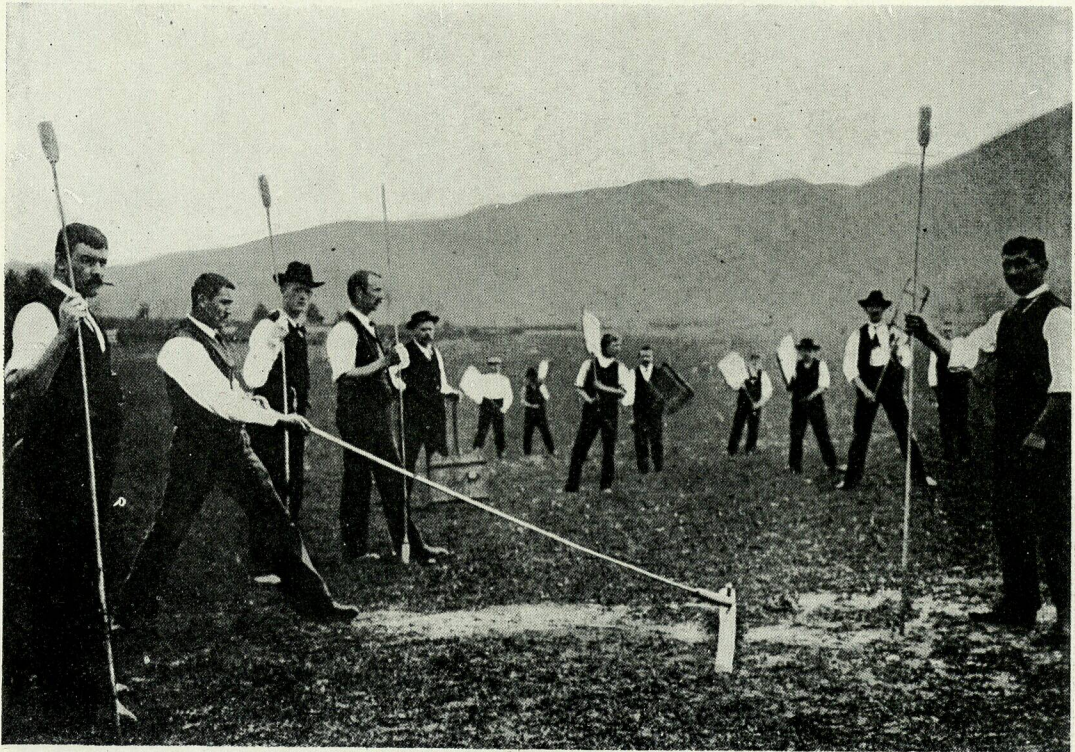
以と事るべ食とぶ遊に殊。いまるあはのもいし樂位事食るすつ揃家一もてくし貧に何如かれそばへ例。庭家流上のスイウス **專食いし樂**
 。む羨を等彼ならやのものを福幸るたれ恵にと富と親兩。うらた何てくなでみし樂がれこはてつとに供子い愛可な様いにはに頭念も何はに外

ブルグ並にニューシヤテルの諸市に、これを見るときは有様である。

ミルクとアル ブス情調

かゝる勤勉な教育の普及せる國民を有する國であるから、國內は名に負ふ山地で平地の大なるものなく、また地質の關係上、礦産物の如きも僅に岩鹽の産を見るに止つてゐるが、統計の示すところによると、全くの不生産地は全面積中僅に二割二三分で、他はそれぞ利用されてゐる、即ち三割餘は森林として、約三割は農耕地並に果樹園、二割は牧場地として利用されてゐり、この國の住民の三分の二はこれ等の産業に従事してゐるのである。

しかし重要な農耕地の如き三割に當つては、その中一割八分は果樹園で眞の耕作地は一割六七分に



スイスに於けるルーボ・スーベがそのカリメアでルーボ・トフがムーゲルナヨシナのスリギイ
るあでのうはぎにこれに野のスイスの頃の春陽。るあが技競く行てつ打をルーボを離距離大似にフルゴふいとセンツヌルホはに

しか當らぬのであり、山國で土地が高いから氣温も低く農業には好適でない。スイスにおける主産業はどうしても牧畜業をおいて他にはない。それで牧畜はこの國の主産業をなし、牧場はよく開け、飼養する乳牛は實に七八十萬頭にのほり乳製品の製造は盛に行はれてゐる。一度足をスイスに踏んだものは、直に乳牛の發する一種獨特のベルの音に、謂はゆるアルブス情緒を味はしめられ、到るところに掲げられるエンメンタール・チーヅ等の大廣告に驚かされる。

しかしこの牧業のみでは、國民生活はもとより充分でない。どうしても副業を求めねばならぬ。しかし交通不便の山地のこともあり、原料の産もなければ動力たる石炭もないのであるから、大工業は到底望まれない。しかし國民は天性手工藝に長じてゐる。殊に婦女子において著しい。それで緻密な手工業を營むやうになつた。即ち、アルブス大森林の賜たる良材を利用して樂器を造り、原料金屬を輸入して細密精巧な機械を製する等の類が發達した。吾人がスイスを思ふとき直覺的に時計を思ひ出す。その時計製造の如きはまさにこの結果發達したもので、現今この國における重要な産



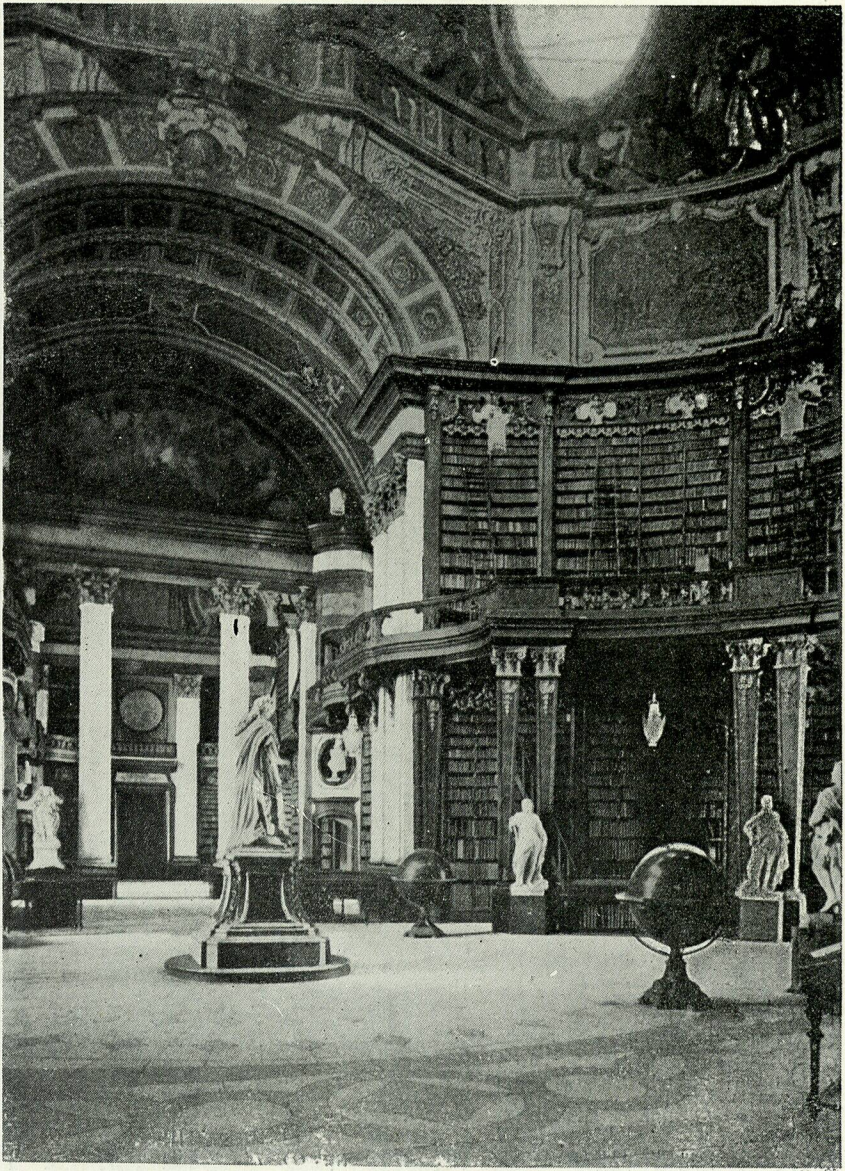
結婚式の笛を吹き 結婚式は人ヤニセルるみに地山のヤリラトスーオ 吹き笛の式に胸の嫁花たしかめ
 心と日に今きし嬉るみてつを習風く吹を笛るな美優に式婚結は人ヤニセルるみに地山のヤリラトスーオ
 一の習風きし嬉の間山。うらだぬ得をきな感の種一もにちた人く吹を笛。かうらだとこく響うどが笛のこはに胸の嫁花たしかめ

物をなしてゐる。その他寶石細工、眼鏡、理化學機械の製造が盛なのもこの理にほかならぬ。しかし近時、石炭の時代は既に過ぎて、水力の利用が開けてきた。かうなるとスウイスは、その地勢上これが應用には天與の恩恵を有するの、從來の手工業家内工業國は、一朝にして堂々たる工業國に變じた。その結果は各國から勞働者の移住を促し、スウイスは山國なるにも拘はらず、人口稠密といふ現象を呈するやうになつたのである。

世界の公園

交通は元來の山地で、面積の三分の二は山岳をもつて覆はれてゐるため、水運は勿論一般交通は不便の理ではあるが意外にもさうでなく、鐵道の如きも多く建設せられ、近時電力の應用發達の結果一層便利になり、從來交通上の障礙となつてゐた各峠の如きも、シムプロン、ゴタード等の大トンネルの開鑿ができ、また航空機による交通も著しく發達し、旅客を始め貨物の輸送をもやるやうになり、さしもの山國も交通の不便を感じなくなつてゐる。これはまた産業並に貿易上にも影響を及ぼし、貿易の如き年々約百六十万フランを輸出し、約百五十餘萬フランを輸入し、年々約三萬フランの輸出超過を示すといふ狀況で、穀類以外には主に絹製品、綿製品、金屬類などの工業原料品を輸入し、絹製品、綿製品、時計、機械などに手を加へて精製品として輸出してゐる状態で、狭小な山國の貿易としてはむしろ盛況といはねばならない。

なほスウイスについて見逃すことのできないのは、スウイスの自然の美である。その多數の湖沼といひ、アルプスの



宮殿中の圖書室
この圖書室は、宮殿の一角にあり、その規模は、年一億圓以上に達すと稱せられ、スウイスの經濟は貿易によつて支へられるの他、觀光客により支へられることも多大である。スウイスを評して、スウイスは小さい國で遊覽客をあてにしてゐる國である。これでスウイスをいひ盡したといひ得るなどといつてゐるものもあるが、必ずしも誤評ではない。

連峯といひ、自國の風光の明媚になれたさすがの日本人ですら嘆賞せざるを得ない。かつ土地が高いから涼しいので、夏季の避暑には好適である。これは世界各國よりの觀光客を誘ふ原因となり、殊に近時交通の便は開け、スウイスではこれが目的をもつて諸般の設備を整へ、登山鐵道の如きも各所に設けられ、有名なユングフラウの高峯の如き歐米に遊ぶものが、容易にその山頂を究め得るやうになつてゐるので、觀光客

であらう。風光の明媚はまた永久にスウイスの財源を助けるであらう。

行詰つたオーストリア

新共和聯邦

オーストリアは、アルプスの分水界から東に向つて流出する河川が下

の潮流は年々流入、その數實に數百萬人にのほり、その落す金額は、年一億圓以上に達すと稱せられ、スウイスの經濟は貿易によつて支へられるの他、觀光客により支へられることも多大である。スウイスを評して、スウイスは小さい國で遊覽客をあてにしてゐる國である。これでスウイスをいひ盡したといひ得るなどといつてゐるものもあるが、必ずしも誤評ではない。

要するにスウイスの特徴は、山國といふ點にある。自然に世界の中立地帯たるの色彩をあらはしてをり、將來と雖も定めしこの地位を失はぬであらうし、物資には乏しいが、四圍には大顧客を控へ、豊富なるホワイトコールは、永久にスウイスをして工業地たるの地位を保たしめる



はに面前 みるみでれら飾は彫彫の風マーロヤシリギや像馬騎のズンロブ みるあで堂事議のシーイウいし美 堂事議會國のシーイウ
 みるあでろことるみでん並立が物建な敷有は近附のこで物建の廳市の市シーイウはのるみでえ聳く高に方後 みるみでれらてたが像の スラバ

ナウ河に注入するまでの谷間の地域で、そのドナウに合するところは、實に四通八達の要衝をなし、古來民族間の防禦地となり、ローマ人もここに砦を築き、ゲルマン人の建國以來は、更にスラヴ人がその他の蠻族を防ぐためこゝに藩鎮をおいた。ここが今のオーストリアの首府ウィーン市である。久しく神聖ローマ皇帝の都、ドイツ聯邦の盟主として榮えたが、一八六六年プロシヤの勃興により、ドイツ聯邦から除外されハンガリヤと聯合し、謂はゆるオーストリア・ハンガリヤ大帝國を形成し、中歐における強國としてその覇を唱へてゐたのであつた。しかし領内は各地地勢を異にし民族も自ら異つてゐるので、表面統一國家となつてはるたが民族的の融合はもとより不可能だつた。故に世界大戰の結果民族自決の主張



イタリーの宗教祭典の光景。前景には多くの信者が祈りを捧げ、背景には大聖堂のアーチが映る。イタリー人の宗教生活の一端を窺ふことが出来る。

せられるや、忽ち分裂しボスニヤ、ヘルツェゴヴィナ等はユーゴ・スラヴィヤ國に、トランシルヴァニアをルーマニヤに、南ティロール、イストリヤ半島、並にフィウメをイタリヤに併合されたるほか、北部のボヘミア方面は獨立してチエコ・スロヴァキヤ國となり、東のハンガリヤも獨立し、ガリチヤは分離してポーランドに入り、今は僅にドナウ河を界とする、アルプスの山地を残すのみとなつたのである。もと四萬四千里の面積、千二百萬の人口をもつてゐたオーストリア、ハンガリヤ國は、今や面積三一、七六〇方マイル、人口六百六十萬の一、小オーストリアとなつてしまつたのである。

政體もこれと共に變り、君主國を廢して一九一八年の革命により國民議會が政權を握り、一般投票で憲法を制定し、一九二〇年十一月から實施した。即ち上下兩オーストリア、ザルツブルグ、ティロールなどを始め、八州とウィーンの一市とよむるなる聯邦共和政體となつた。議會は上院即ち聯邦議會、下院即ち國民議會の二院よりなり、下院の議長は聯邦大統領となり、特定の場合には、法律の制定は一般投票によることになつてゐる。議會は廿一歳以上の男女國民から公選した、年



ルルーヨシに時るけつを着時や時るすをり詣寺おは女ヤリガンハ 娘たけかをルルーヨシ
。いなかは迄口入の町を靴はに時る出へ町で足裸常平は々人の舎田い多が物色で布絹。るけか

すにたりない。肉類にせよ、國內で供給し得るのは、僅にその一割餘分にしか當らない。なほ奥國で需する薪炭の如きも、國內では僅に五分の一しか供給できないといふ哀れな状態で、現今の奥國では、到底一國家としての體面を持続し行くことは不可能である。一時は國民生活は極度の窮狀に陥り、その慘憺たる状態は、當時の視察者の等しく傳へてゐるところである。一九二二年には、國際聯盟から財政管理を受けるやうになつたが、これは幸ひにも一九二五年に至り一旦終ることになつた。しかし奥國の苦境は、これによつて決して救はれたわけではない。最近の對外貿易も年々入超を續け、その額は年平均十一億餘塊シリ

り、住む人たちも一大帝國の首府であつたウィーン府の市民だけあつて、新興國に見られない風雅さで、これが戦争による悲惨な敗民とは思はれない。とも角、戦後疲弊その極に達したオーストリアが、たとへ外觀的にせよ整つたといふことは、全く有名な首相ザイベル氏の努力の賜であつたことを忘れることはできない。氏は元來宗教家で、傍らウィーン大學に神學を講じてゐたが、世界大戰の結果オーストリアの窮狀に陥るや、即ち政界に投じ粉骨國事に奔走しキリスト教社會黨を率ゐて一九二二年並に一九二六年に組織し、先づ國

奥獨合併問題

勿論、ドイツ邊から奥國の境に入ると、人間こそドイツ人と異ならないけれども、何となく活氣もなく、萬事が田舎びて見えるが、ウィーン市の如き、古い都で多年大帝國の首府であつただけにその建築物といひ、街路といひ、華美雄大で到底新しいドイツ邊には見られぬ壯嚴さであつて、輸出は僅に輸入の六割にしか當つてゐない。商品別にしてみても、精製品の輸入が著しき超過を示し、輸入總額の三餘分を占めてゐる。かく入超でしかも精製品の輸入が多いといふことは、奥國産業の不振を示すものでなく何であらう。奥國では國際聯盟による財政整理と共に、或は發電能力の増加、耕地の整理改良など、極力經濟の復活をはかつた結果、財界は近時多少回復の色を呈してゐる。これは奥國視察諸氏の、異口同音にいふところである。